

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>	哲学 I Philosophy I				担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 松本 啓二郎			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	哲学・思想(基礎)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
哲学とは何か、哲学は何を問題とするのか。授業では、古代から近世までの哲学史上の代表的な哲学者の代表的な著作からの抜粋を解読しながら、この問いを考えていく。それとともに、自らが哲学的な問いを見出し、それを問うていくことを目標とする。									
【到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・哲学史(古代から近世まで)の基礎知識を身につける。 ・哲学的な問いを考えることを経験する。 									
【授業計画と内容】									
本授業(Ⅰ)では、古代・中世・近世の哲学を扱う。									
第1回 導入 哲学は何を問うべきか									
第2回 なぜ哲学史を学ぶのか									
第3回 プラトン(1)									
第4回 プラトン(2)									
第5回 アリストテレス(1)									
第6回 アリストテレス(2)									
第7回 トマス・アキナス(1)									
第8回 トマス・アキナス(2)									
第9回 デカルト(1)									
第10回 デカルト(2)									
第11回 ロック(1)									
第12回 ロック(2)									
第13回 カント(1)									
第14回 カント(2)									
最終回 フィードバック									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
授業では毎回課題を出す。成績は、「授業への参加態度」と「課題に対する回答」、ならびに学期末の「レポート」によって評価する。詳細は初回講義時に説明する。									
【教科書】									
授業で使う資料は、コピーを配布する。									
----- 哲学Ⅰ(2)へ続く -----									

哲学 I (2)

[参考書等]

(参考書)

松本啓二郎 / 戸田剛文 (編) 『哲学するのになぜ哲学史を学ぶのか』 (京都大学学術出版会)
ISBN:978-4-87698-239-4

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業で扱う資料を必ず読んでくること。十分な予習が必要である。

[その他 (オフィスアワー等)]

原典を読みながら考える。そのなかでさまざまな問いを見つけ出して、さらに考える。大人数の講義形式の授業ではあるが、できる限りそのようなことを行って、知識の習得にとどまらない哲学的な知の営みを経験してほしいと思っている。

適正授業規模の範囲内で行うため、第1回目の授業で課す小レポートにより、履修人数制限を行う。